

1P139

認識する甘やかし行動をする養育者の思いと支援のあり方

浅井 佳士、山下 八重子、岩本 美由紀、
加瀬 由香里

明治国際医療大学

【目的】

認識する甘やかし行動をする養育者の思いを明らかにし、看護師として有効な支援方法を検討することを目的とした。

【研究方法】

「養育者」、「甘やかし」、「甘え」、「支援」をキーワードとして、1989年～2020年の期間で医学中央雑誌Web版(Ver.5)にて検索した結果27件の文献が得られた。この中から、甘えを養育者側の視点から書かれてある12件の文献を研究対象とした。

甘やかし行動をする養育者の思いを示す語りを抽出しMayringの手法を参考に内容分析を行った。母親の「甘やかし」を示す語りについての文脈を抽出しコード化し、類似のコードをまとめてサブカテゴリー、カテゴリー化をおこない整理し、母親の支援に着目して支援のあり方を検討した。分析の過程では、小児看護学を専門とする教員と検討し妥当性の確保に努めた。

【結果】

甘え・甘やかしの文献は年々増加しているが、1990年より増加している。職域別の文献は、看護・医療系14件、保育・教育系11件、その他2件に分類できた。このうち研究論文は18件であった。甘えを養育者側の視点から書かれてある文献は12件、甘えを子ども側の視点から書かれてある文献は6件であった。

認識する甘やかし行動をする養育者の思いとして、【体調の悪い子どもをいたわりたい】、【子どもに不満なく過ごしてほしい】、【入院生活が子どもにとってストレスのあるもの】、【いろいろなことに挑戦することが大切だ】、【病気を理由に自分を否定してほしくない】、【きつく叱ることで周りからどう思われるか心配】、【甘やかしてはいけない】、【子どもが騒ぐことで周りに人に迷惑をかけてはいけない】の9カテゴリーが抽出された。

【考察】

認識する甘やかし行動をする養育者の思いは、入院生活におけるストレスや疾患治療に伴う制限などが及ぼす子どもへの悪影響を避けたい、体調の悪い子どもをいたわりたいといった子どものためを思うものであるため、養育者の意図を理解し甘やかしを肯定的に見守るとともに、養育者の意図することを後押しするためには、子ども関心のある遊びの実施や何かに挑戦するなど甘やかし以外の方法で効果的なものを提案することが有効な支援であることが示唆された。

1P140

在日ペルー人母親の子どもの医療機関受診行動と困難

鈴木 茉莉

あいち小児保健医療総合センター

【研究目的】

在日ペルー人の母親が子どもの病気に気がついた時にどのように考え、受診の判断をしているのか、受診せずに対処せざるを得なかった状況と受診に至った状況、また受診の際の困難を明らかにし、支援を検討する。

【研究対象】

A県内に在住しているペルー人母親10名程度。

【データ収集・分析方法】

インタビューガイドを用いて半構造化面接を実施した。面接は対象者の許可を得て録音し、録音した会話から日本語逐語録を作成・コード化し記述的内容分析を行った。

【倫理的配慮】

愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(31愛県大学情第1-3号)。対象者に説明文書を用いて研究参加への自由意志の尊重等について説明し、同意書にて同意を得た。

【結果】

研究参加者は4名であった。在日ペルー人母親は、受診しなくて済むように日頃から予防行動をとっていた。その上で、子どもの体調不良時には内服等で対処し、自分では対処できない場合に医療機関を受診させていた。受診する場所は言語に配慮のある医療機関等を選択していた。また、在日ペルー人母親は子どもを医療機関を受診させる際、言語の違い、医療機関や文化的背景の違い、サポート不足、仕事を休めない状況に困難を感じていた。加えて、在日ペルー人母親はそれらの困難に対し、日本語能力を向上させる、ペルーの育児習慣を継続する、社会的サポートを活用する、時間外に受診する等の対処行動をとっていた。在日ペルー人母親は、医療従事者に理解してもらえず取り残されるという不満があり、文化の違いの理解、困難に対しての思いが語られた。

【考察】

在日ペルー人母親の子どもの医療機関受診時には、言語的な困難が大きく、医療通訳システムの整備は急務である。日本語は理解できなくても、健康問題に対処できるよう、病気の際に必要な単語の日本語・スペイン語表記の一覧表を作成し、配布する等の支援が必要と考える。さらに、在日ペルー人母子の医療機関受診の裏には、受診に至るまでの対処や思いがあることを看護師や医療従事者は意識する必要があると考える。

【結論】

在日ペルー人の母親は、日頃から予防行動をとっており、子どもの体調不良に自ら対処できない場合に医療機関を受診させていた。また、在日ペルー人母親は子どもを医療機関に受診させる際、言語の違い、医療機関や文化的背景の違い、サポート不足、仕事を休めない状況に困難を感じ、それぞれに対処行動が見られた。